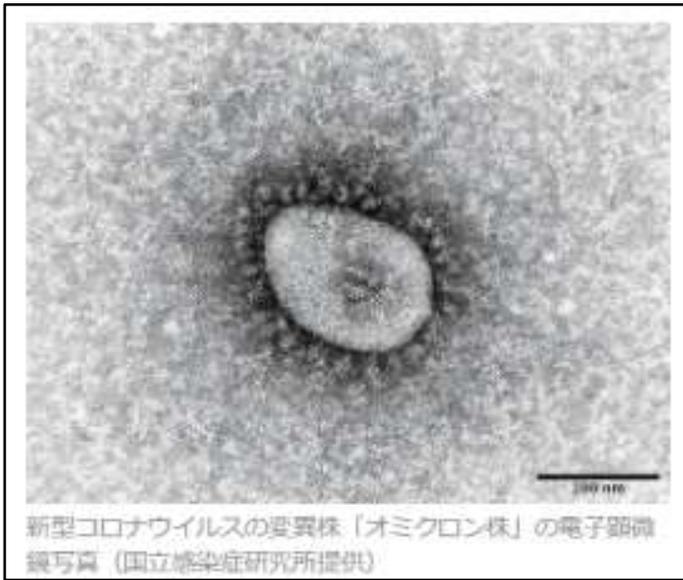


南アで感染拡大の「BA・4」と「5」、現在主流「BA・2」より感染力高い可能性

2022/6/1 読売新聞



新型コロナウイルスの変異株「オミクロン株」のうち、南アフリカなどで感染が拡大している新系統「BA・4」と「BA・5」は、国内で現在主流である「BA・2」より感染力や病原性（重症化リスク）が高い可能性があるとの研究結果を、東京大などのチームが発表した。査読前の論文をオンライン上で公開した。南アではBA・2から両系統への置き換わりが進んでいる。国内でも4月以降、入国者の空港検疫で検出された。BA・5は市中感染も確認されている。

チームは、南アでの両系統の流行状況などを解析し、感染力はBA・2と比べて約1・2倍強いと算定した。ハムスターにウイルスを感染させる実験では、体重が減少する割合や、肺の組織が障害を受ける程度などが大きく、重症化しやすくなっているとみられた。オミクロン株は肺より鼻、のどで増殖しやすいとされていたが、性質が変わっている可能性がある。感染を防ぐ免疫物質（抗体）の効果も大幅に低下していた。

チームの佐藤佳・東京大教授（ウイルス学）は「新型コロナは変異して次第に重症化しなくなるという予想もあったが、そうとは限らない」と指摘している。

北里大学の中山哲夫・特任教授（臨床ウイルス学）の話「南アなどでは、重症化のリスクが高まったことを示す臨床データはまだない。さらなる調査や研究が必要だ。警戒を緩めることなく、ワクチンの追加接種やPCR検査などを続けていくことが大切だ」

